【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成23年7月14日(2011.7.14)

【公表番号】特表2010-529843(P2010-529843A)
【公表日】平成22年9月2日(2010.9.2)
【年通号数】公開・登録公報2010-035
【出願番号】特願2010-511287(P2010-511287)
【国際特許分類】
*Ｃ１２Ｎ　15/09　(2006.01)*
*Ｇ０１Ｎ　33/574　(2006.01)*
*Ｃ０７Ｋ　14/47　(2006.01)*
*Ｃ０７Ｋ　19/00　(2006.01)*
*Ｃ０７Ｋ　16/44　(2006.01)*
*Ｃ１２Ｎ　5/09　(2010.01)*
*Ｃ１２Ｑ　1/04　(2006.01)*
*Ｃ１２Ｎ　15/02　(2006.01)*
*Ａ６１Ｋ　38/00　(2006.01)*
*Ａ６１Ｐ　35/00　(2006.01)*
*Ａ６１Ｋ　39/395　(2006.01)*
*Ｃ１２Ｐ　21/08　(2006.01)*
【ＦＩ】
Ｃ１２Ｎ　15/00　ＺＮＡＡ
Ｇ０１Ｎ　33/574　Ａ
Ｃ０７Ｋ　14/47
Ｃ０７Ｋ　19/00
Ｃ０７Ｋ　16/44
Ｃ１２Ｎ　5/00　２０２Ｕ
Ｃ１２Ｑ　1/04
Ｃ１２Ｎ　15/00　Ｃ
Ａ６１Ｋ　37/02
Ａ６１Ｐ　35/00
Ａ６１Ｋ　39/395　Ｄ
Ａ６１Ｋ　39/395　Ｎ
Ｃ１２Ｐ　21/08

【手続補正書】
【提出日】平成23年5月27日(2011.5.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
MEDのアイソフォーム（SEQ ID NO：100～104、4、5、87～99、105～164）であるか、
SWI/SNFのアイソフォーム（SEQ ID NO：165～201)であるか、
GTFのアイソフォーム（SEQ ID NO：6～56)であるか、
TAFのアイソフォーム（SEQ ID NO：57～86)であるか、または
コアクチベーターもしくはコリプレッサーのアイソフォーム(SEQ ID NO：202～207)で

ある、SEQ ID NO：4～207に示されたアイソフォームから選択される、転写コレギュレーターのアイソフォーム、またはその完全に相補的な配列。
【請求項２】
請求項1記載のアイソフォームに特異的に結合する、長さが少なくとも6アミノ酸であるかまたは長さが少なくとも12アミノ酸であるペプチド。
【請求項３】
異種ペプチドと融合した請求項1記載のアイソフォームまたは請求項2記載のペプチドを含む融合タンパク質であって、任意で、該異種ペプチドが、SEQ ID NO：1～3からなる群より選択される、融合タンパク質。
【請求項４】
請求項1記載のアイソフォームに特異的に結合し、任意で、検出可能なマーカーによって標識されている抗体。
【請求項５】
請求項1記載のアイソフォームをコードするポリヌクレオチドまたはその相補体。
【請求項６】
請求項1～5のいずれか一項記載の分子と、薬学的に許容される担体とを含む、組成物。
【請求項７】
組織検体中の請求項1記載のアイソフォームの存在を検出する段階を含む、組織検体中のがんを検出するための方法であって、アイソフォームの存在が、がんを示す、方法。
【請求項８】
検出する段階が、請求項1記載のアイソフォームに特異的に結合する検出可能な分子と組織検体とを接触させること、および検出可能な分子の結合を検出することを含み、検出可能な分子の結合が、がんを示す、請求項7記載の方法。
【請求項９】
（a）対象から得た組織検体を、検体中に存在する請求項1記載のアイソフォームの量を測定するためにアッセイする段階；および
（b）検体中に存在するアイソフォームの量を、以前の条件下で決定されたアイソフォームの量と比較する段階
を含む、対象におけるがんをモニタリングするための方法であって、アイソフォームの量の変化が、がんの進行の変化を示す、方法。
【請求項１０】
アッセイする段階が、請求項1記載のアイソフォームに特異的に結合する検出可能な分子と検体とを接触させることを含み、検出可能な分子の結合のレベルの変化が、がんの進行の変化を示す、請求項9記載の方法。
【請求項１１】
アッセイする段階（a）が、アイソフォームが結合する組織検体中のがん細胞のパーセンテージを決定すること、および/または組織検体中の検出可能な分子の結合の量を決定することを含む、請求項9記載の方法。
【請求項１２】
がんが、黒色腫、結腸直腸がん、肺がん、肝細胞がん、膵がん、前立腺がん、神経膠腫、膠芽細胞腫、神経芽細胞腫、肉腫、軟骨肉腫、乳がん、卵巣がん、または奇形がん腫である、請求項7～11のいずれか一項記載の方法。
【請求項１３】
アイソフォームに特異的に結合する分子が抗体であり、任意で、該抗体が、検出可能なマーカーによって標識されている、請求項7～12のいずれか一項記載の方法。
【請求項１４】
がん細胞を、請求項2または請求項3記載のタンパク質またはペプチドと接触させる、がん細胞を死滅させることにおける使用のための、請求項2または請求項3記載のタンパク質またはペプチド。
【請求項１５】

対象におけるがんを治療することにおける使用のための、請求項6記載の組成物。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
本発明の方法によって検出、モニタリングまたは治療される代表的ながんには、黒色腫、結腸直腸がん、肺がん、肝細胞がん、膵がん、前立腺がん、脳腫瘍（星状細胞腫、膠芽細胞腫、神経芽細胞腫）、肉腫、軟骨肉腫、乳がん、卵巣がん、または奇形がん腫が含まれるが、これらに限定されない。典型的な態様において、アイソフォームに特異的に結合する分子はペプチドである。ペプチドは任意で、例えばインビボ画像化のための、検出可能なマーカーによって標識されてもよい。
[請求項1001]
SEQ ID NO：4～207に示されたアイソフォームから選択される、転写コレギュレーターのアイソフォーム。
[請求項1002]
請求項1001記載のアイソフォームに特異的に結合する、長さが少なくとも6アミノ酸であるペプチド。
[請求項1003]
長さが少なくとも12アミノ酸である、請求項1002記載のペプチド。
[請求項1004]
異種ペプチドと融合した、請求項1001記載のアイソフォームまたは請求項1002記載のペプチドを含む、融合タンパク質。
[請求項1005]
異種ペプチドがSEQ ID NO：1～3からなる群より選択される、請求項1003記載の融合タンパク質。
[請求項1006]
請求項1001記載のアイソフォームに特異的に結合する、抗体。
[請求項1007]
検出可能なマーカーによって標識されている、請求項1005記載の抗体。
[請求項1008]
請求項1001記載のアイソフォームをコードするポリヌクレオチドまたはその相補体。
[請求項1009]
請求項1001～1007のいずれか一項記載の分子と、薬学的に許容される担体とを含む、組成物。
[請求項1010]
組織検体中の請求項1001記載のアイソフォームの存在を検出する段階を含む、組織検体中のがんを検出するための方法であって、アイソフォームの存在が、がんを示す、方法。
[請求項1011]
検出する段階が、請求項1001記載のアイソフォームに特異的に結合する検出可能な分子と組織検体とを接触させること、および検出可能な分子の結合を検出することを含み、検出可能な分子の結合が、がんを示す、請求項1010記載の方法。
[請求項1012]
（a）対象から得た組織検体を、検体中に存在する請求項1001記載のアイソフォームの量を測定するためにアッセイする段階；および
（b）検体中に存在するアイソフォームの量を、以前の条件下で決定されたアイソフォームの量と比較する段階
を含む、対象におけるがんをモニタリングするための方法であって、アイソフォームの量の変化が、がんの進行の変化を示す、方法。

[請求項1013]
アッセイする段階が、請求項1001記載のアイソフォームに特異的に結合する検出可能な分子と検体とを接触させることを含み、検出可能な分子の結合のレベルの変化が、がんの進行の変化を示す、請求項1012記載の方法。
[請求項1014]
アッセイする段階（a）が、アイソフォームが結合する組織検体中のがん細胞のパーセンテージを決定すること、および/または組織検体中の検出可能な分子の結合の量を決定することを含む、請求項1011記載の方法。
[請求項1015]
がんが、黒色腫、結腸直腸がん、肺がん、肝細胞がん、膵がん、前立腺がん、神経膠腫、膠芽細胞腫、神経芽細胞腫、肉腫、軟骨肉腫、乳がん、卵巣がん、または奇形がん腫である、請求項1010～1014のいずれか一項記載の方法。
[請求項1016]
アイソフォームに特異的に結合する分子が、抗体である、請求項1010～1015のいずれか一項記載の方法。
[請求項1017]
抗体が、検出可能なマーカーによって標識されている、請求項1016記載の方法。
[請求項1018]
請求項1002～1005のいずれか一項記載のペプチドとがん細胞とを接触させる段階を含む、がん細胞を死滅させる方法。
[請求項1019]
請求項1009記載の組成物の有効量を対象に投与する段階を含む、対象におけるがんを治療する方法。